エピローグ　No4

みんなの結論は…エリスを犯人として拘束することであった。

彼女は狂ったように抵抗したが、数人の力で抑えられ、やがて大人しくなった。
そして 夕方到着した警察に引き渡されていったのである。

彼女にはマフィアとつながりがあり、彼らから多額の負債を抱えていた。
ジャックを脅す計画を立てていたとして軽い罪に問われたが、殺人罪としては
成立しなかった。

もっとも娑婆に出てもマフィアに命を狙われるような状況である。
彼女は「自分がジャックを殺した」と自供して、ずいぶん粘ったが・・・

それから12年の歳月が流れ…

この国では殺人に対する時効が宣言される年月だ。
ようやく…　ようやく、私は明るい日の光のもとを歩けるのだ。

私は…思い立ったように車をはしらせ、12年ぶりにあのホテルに行った。

偽名を使いホテルにチェックインする。
昔よりもずいぶん綺麗になったものだ。 オーナーが変わるとこんなにも変わるものか。

「ま、まさか貴方…」

不意に声を掛けられた。 もう何年も会っていないが…誰の声かはすぐに分かる。

「キャシー、元気そうで何よりだ。一目みれて、本当によかったよ。」

いまや中年となり子供もいるようだが、彼女の魅力の笑顔は今でも残っていた。

事件直後、私と一緒に逃亡に協力してくれた彼女だが、やはり巻き込むわけには
いかない。私はひとり彼女の元を去っていた。

翌朝、彼女と語り尽くした私は早々にホテルをチェックアウトする。

もう二度とここに来ることはないだろう。
悪夢から覚めた私は、また次の道を歩まねばならない。

ロンの手記より